

テーマ：雇用関連統計（2007年6月） ～雇用環境は良好～

発表日：2007年7月31日（火）

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 結城 良彦
 TEL：03-5221-4573

要旨

- 完全失業率は先月から0.1ポイント改善し3.7%となった。また、有効求人倍率は先月から0.01ポイント改善の1.07倍、新規求人倍率は先月から横ばいの1.54倍となった。有効求人倍率は昨年の夏頃から頭打ち傾向にあったが、このところ持ち直しが見られるようになってきている。雇用環境は、引き続き良好な状態にあると判断できる。
- 日銀短観の6月調査では、雇用人員判断DIは前回から「不足」超幅が縮小していたが、企業の人手不足感の水準は高く、良好な雇用環境は今後も続く見込みである。労働需給がさらに引き締まってくることで、低迷している賃金にも徐々に上昇圧力がかかってくるだろう。

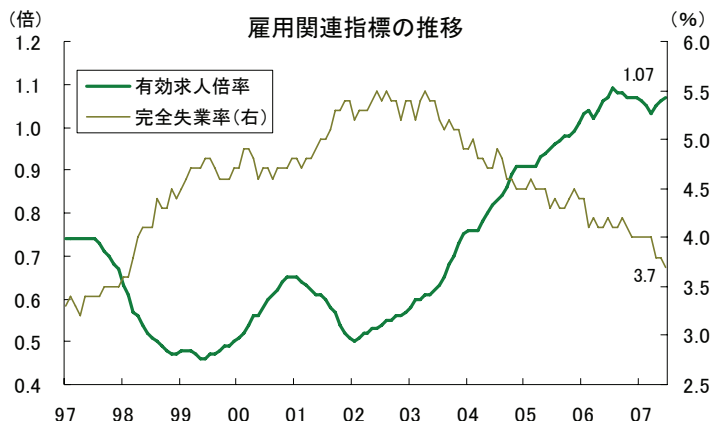
(単位：％、万人、倍)

		労働力調査								一般職業紹介状況			
		労働力人口		就業者数		雇用者数		失業者数		完全失業率	有効求人倍率	新規求人倍率	新規求人
		季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	前年差	季調値	季調値	季調値	前期比
05	7月	6,654	8	6,360	37	5,384	28	292	▲29	4.4	0.96	1.49	▲0.9
	8月	6,644	▲21	6,355	10	5,386	15	288	▲30	4.3	0.97	1.49	0.7
	9月	6,675	43	6,390	68	5,440	101	284	▲24	4.3	0.98	1.49	0.1
	10月	6,673	50	6,376	57	5,442	95	296	▲7	4.4	0.98	1.45	▲0.6
	11月	6,647	25	6,347	22	5,409	50	300	2	4.5	0.99	1.51	1.0
	12月	6,645	4	6,352	9	5,417	56	291	▲5	4.4	1.01	1.57	0.6
06	1月	6,656	4	6,364	8	5,447	92	292	▲4	4.4	1.03	1.56	0.9
	2月	6,660	17	6,385	48	5,476	126	276	▲31	4.1	1.04	1.56	0.6
	3月	6,646	24	6,372	48	5,469	111	276	▲24	4.2	1.02	1.51	▲3.6
	4月	6,633	▲10	6,364	16	5,456	69	271	▲26	4.1	1.04	1.53	0.8
	5月	6,650	▲17	6,380	13	5,473	78	271	▲30	4.1	1.06	1.61	4.5
	6月	6,658	19	6,376	20	5,484	101	281	▲2	4.2	1.07	1.58	▲1.6
	7月	6,643	▲11	6,372	11	5,460	73	271	▲21	4.1	1.09	1.58	1.3
	8月	6,653	10	6,377	22	5,469	81	276	▲12	4.1	1.08	1.60	0.1
	9月	6,662	▲11	6,382	▲6	5,479	40	279	▲5	4.2	1.08	1.57	▲2.1
	10月	6,677	5	6,404	28	5,485	45	273	▲23	4.1	1.07	1.53	▲3.2
	11月	6,683	33	6,416	66	5,490	80	265	▲33	4.0	1.07	1.60	3.3
	12月	6,665	18	6,394	39	5,473	53	269	▲21	4.0	1.07	1.60	▲0.7
07	1月	6,636	▲19	6,373	9	5,496	48	264	▲28	4.0	1.06	1.51	▲2.3
	2月	6,683	23	6,415	30	5,535	58	268	▲7	4.0	1.05	1.51	2.1
	3月	6,683	35	6,416	43	5,530	60	269	▲8	4.0	1.03	1.50	▲4.7
	4月	6,692	60	6,439	76	5,540	85	256	▲16	3.8	1.05	1.58	0.7
	5月	6,680	32	6,429	51	5,516	47	252	▲19	3.8	1.06	1.54	2.1
	6月	6,675	16	6,428	53	5,532	48	244	▲37	3.7	1.07	1.54	▲0.9

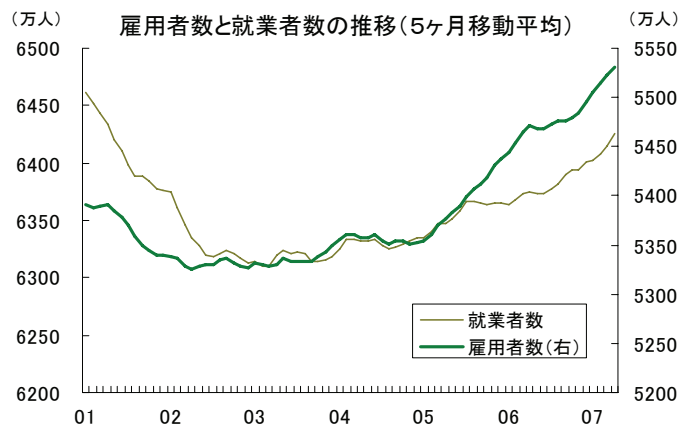
(出所)総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は0.1ポイント改善の3.7%

6月の失業率は先月から0.1ポイント低下し3.7%となった。事前予想では先月から横ばいを予想する声が多かったが、若干の改善となり、雇用環境は良好な状態にあることが再確認できる結果であった。内訳をみると、就業者数は前月比▲0.0%と横ばいであったが、雇用者数は同+0.3%と増加し、失業者数は同▲3.2%と減少した。また、同時に公表された6月の有効求人倍率は1.07倍と先月から0.01ポイント改善し、新規求人倍率は先月から横ばいの1.54倍となった。有効求人倍率は昨年の夏頃から頭打ち感が出てきていたが、足元では3ヶ月連続で前月を上回る数値が出ており、持ち直しがみられるようになってきている。



(出所)総務省「労働力調査」 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所)総務省「労働力調査」

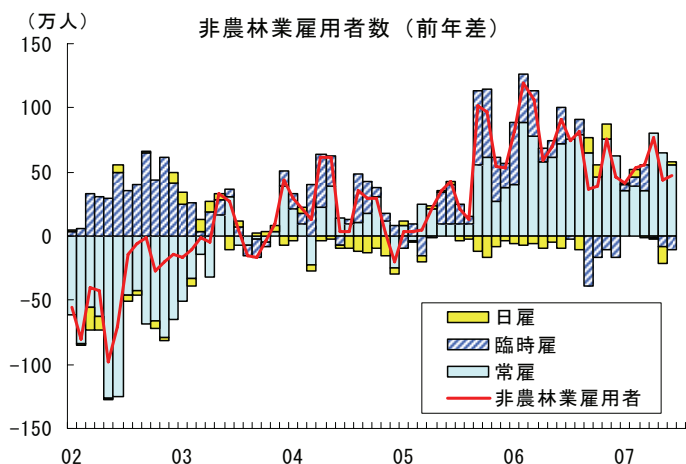
○ 全ての年齢層で失業率に低下傾向

今回、失業者数は前年比で▲13.3%と落ち込み、19ヶ月連続の減少となった。失業率の低下は全ての年齢層においてみられており、特に若年層の失業率の低下が目立っている（15～24歳の対前年失業率増減 男：▲0.7ポイント、女：▲2.1ポイント）。この背景には、企業が若年層の採用を活発化させていることがあるとみられ、水準自体はまだ高いものの、若年層の失業率はさらに低下してくることが見込まれる。

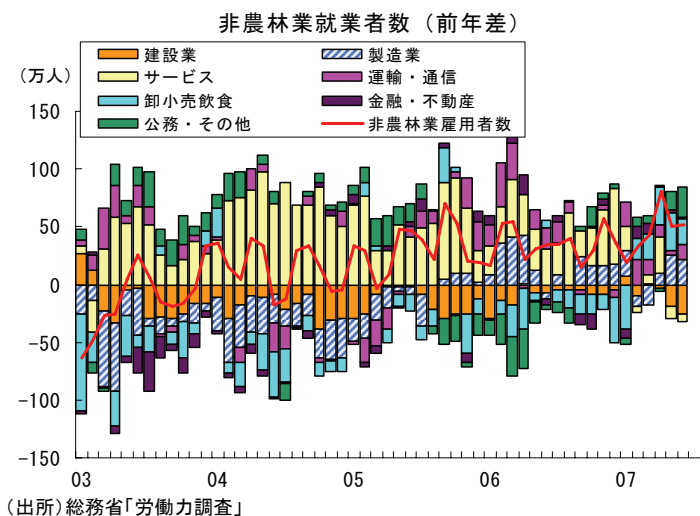
産業別に就業者の増減をみると、卸売・小売業、飲食店・宿泊業、製造業などで前年比プラスとなっている。昨年伸び悩んだ卸売・小売業の就業者数は今年に入ってから前年比プラスに転じており、今月で4ヶ月連続のプラスとなる。また、先月11ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった医療・福祉は同+0.9%とわずかではあるが持ち直した。一方、昨年まで堅調だったサービス業は4ヶ月連続で前年割れとなっており、一服感がみられるようになっている。

○ 労働需給の引き締まりにより、賃金にも徐々に上昇圧力

6月調査の日銀短観の雇用人員判断D Iは前回調査から「不足」超幅が縮小していた。もっとも企業の人手不足感は依然高い水準にあることから、今後も良好な雇用環境が続くと予想される。失業率の低下ペースは当面緩やかなものにとどまる見通しだが、労働需給がさらに引き締まってくことで、足元で低迷している賃金にも徐々に上昇圧力が加わってくるだろう。



(出所)総務省「労働力調査」



(出所)総務省「労働力調査」